

高志台

NAGAOKA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

学園だより

Vol.176

2012. 12. 20発行

CONTENTS

02-03	 未工祭	10-11	 専攻科だより
04-05	 卒業後の進路を 考える後輩諸君へ	12-13	 部活動報告
06-07	 企業実習	14	 体育祭
08-09	 見学旅行	15-16	 トピックス

★高志台 (こうしだい)

古代、新潟県を含む日本海側の一帯は、“このくに”
(越の国・古志の国・高志の国)と呼ばれていました。
学生に高い志を持って欲しいとの願いと歴史上
の地名とを関連させて、学校のある台地を
「高志台(こうしだい)」と命名しました。



独立行政法人国立高等専門学校機構

長岡工業高等専門学校

Nagaoka National College of Technology

〒940-8532 新潟県長岡市西片貝町888 <http://www.nagaoka-ct.ac.jp/>

長岡工業高等専門学校 2012 未工祭

未工祭開催される

学園祭を終わっての感想

未工祭実行委員長 物質工学科4年 北山 滉

今年度の学園祭は11月2日、3日に行いました。

今年度は新たに3on3の大会や個人企画で様々な企画を行いました。

3on3の大会では多数の学生が参加して汗を流していました。個人企画ではダンスを発表したり、個展を開いたり様々な物を発表する学生がいました。

毎年恒例の演劇や文化部発表、プラスバンドの発表も行われ、悪天候の中にもかかわらず、たくさんの方が来てくれました。

演劇では各学科の1年生から5年生までの学生が最優秀賞を取るために半年かけて準備をしてきました。どの演劇もすばらしかったです。

文化部発表では文化部で一年間かけて制作した作品を展示しました。個人的には書道部の作品がすばらしかったと思います。

プラスバンドでは両日とも体育館と外で発表をしていました。外の天候が悪かったにもかかわらずがんばっていました。

クラス企画では1年生から3年生の学生がクラスで力を合わせて様々な企画を行っていました。

準備から後かたづけまで学園祭とともに過ごしたと言っても過言ではない半年でしたが沢山の人の助けられて無事、終わらせることが出来たと思います。ほんとうにありがとうございました。



平成24年度 ロボコンアイデア賞受賞ロボットも学園祭に出展



書道部の力作展示



写真部の力作展示



露店も盛況であった



クッキーも販売されていた



プラスバンド部の演奏

学園祭を終えて

未工祭副実行委員長 物質工学科3年 星 啓佑

今回の学園祭では学園祭の副実行委員長を務めさせてもらいました。

主な仕事としては花火打ち上げのための業者の方との話し合い、学園祭実行委員長のサポートなどでした。

一年生スタッフの募集については去年とやり方を変えたためとくに問題点も多かったです。委員長との連絡もうまくとれなかったため本来よりも時間がかかってしまった仕事もありました。

スタッフについては早めに声をかけるなどの対応や去年や一昨年のやり方のいいところをつかってもっと効率よくやれたのではと思います。委員長へは問題が起きたらすぐに報告・連絡・相談を心がけるようにするべきだったと思います。

今年は悪天候のため花火を上げることができなくて非常に残念でした。来年は好天に恵まれた学園祭になってほしいと思います。

また今年自分の仕事で学んだことを来年自分と同じポジションにつく下級生に教えられたらと思います。

今年度はいろいろところで改善点や見直すべきところがあったように感じました。来年度はもっと各頭との連絡や報告を行い伝達のミスなどが起こらないようにしたいと思います。来年度は自分が学園祭を引っ張っていく立場となります。今年以上の学園祭にするために学生一人一人が楽しんで頑張れるような学園祭をつくりたいと思います。



ダンス部の演技

長岡高専名物学科対抗演劇大会

結果

総合 1位 電子制御工学科 2位 電気電子システム工学科
3位 環境都市工学科

脚本 電子制御工学科 **演技** 電子制御工学科

道具 環境都市工学科 **音響** 電子制御工学科

照明 電子制御工学科

役者 1位 電子制御工学科4年 松戸 裕之
2位 電気電子システム工学科1年 黒川 佳穂
3位 電子制御工学科3年 篠田 美幸



卒業後の進路を考える 後輩諸君へ

時間を大切に使うこと

機械工学科5年 南雲 貴大



私は、今年の5月にオーエム製作所からの内定という形で就職活動を終えました。概ね予定通りのスケジュールでしたし、機械設計の仕事は高専入学時からの夢でしたので、希望通りの職場に就けたことになります。この経験から、ひとつ言えることは、出来る限り就職活動は早く動くべきだということです。

私が就職活動を始めたのは、昨年の12月です。それまでも就活本を購入して、自己分析をしたりはしていました。ですが、就職活動というものを実感したのは、12月の頭に初めて合同説明会に参加した時でした。そこで知った企業の個別説明会に参加して、選考試験へと進むのですが、中には合同説明会での参加者のみに

募集情報を連絡する企業もありました。早めに動いていないと、希望の業種の企業に受けることすら難しくなるということです。

選考試験は、筆記試験はそこそこに、面接がメインであることが多いです。面接には、もちろん自己PRの方法や、想定される質問の回答を用意して臨みますが、緊張で頭が真っ白になることも初めの1、2回目ではありました。私は合計で6回の面接を受けましたが、回数を重ねるにつれて徐々に落ち着いて話ができるようになっていく実感がありました。やはり数をこなすことが重要なのです。

数をこなすといっても、自分の希望している業種でないならば、それは意味が薄いと言わざるを得ません。だからこそ、早くから就職活動を始めるべきなのです。これを読んでいる時、4年生の皆さんは就職活動や、進学準備を既に始めていることと思います。時間を有効に活用して、自信を持った状態で本番に臨めるよう頑張ってください。

進学を考えている後輩に向けて

電気電子システム工学科5年 星野 裕紀



長岡高専では、近くに長岡技術科学大学があるという要因から非常に大学への編入を選ぶ人が多いです。実際私も編入学という進路を選んだので、本稿では特に進学を考えている学生に向けて述べたいと思います。

受験にあたって私たちのクラスが昨年の初めから言われ続けていた事があります。それは、技大は決して簡単ではないということです。後輩の皆さんは、技大は勉強しなくても確実に受かると考えているかもしれませんが、しかし、現実はそのなにごくありません。実際に私たちのクラスで技大の第一志望に合格

したのは全体の1/3ぐらいでした。遊ぶことも大切ですが、1年間ぐらい真剣に勉強に取り組んでみてはどうでしょうか。

また、高専では一般的に英語力が不足していると言われます。しかし、編入試験では殆どの学校で英語の試験が課されます。英語力は一朝一夕で身につくものではありません。したがって、受験を考えている学生は英語特にTOEICなどに早い時期から取り組むべきだと思います。かくいう私が志望校である東北大学に合格できたのも英語の試験であるTOEICの結果が大きな決め手となったと考えています。

最後になりますが、進学するにせよ就職するにせよ、可否を分けるのは最後まで諦めない心だと思います。もし途中で心が折れそうになっても決して妥協したりせず最後まで取り組んでください。きっと明るい未来が待っているはずです。

卒業後の進路を考える後輩諸君へ

電子制御工学科5年 丸山 貴大



私は、来年度、東北大学の理学部宇宙地球物理学科に編入します。そこで、進学を考える後輩へアドバイスしたいと思います。

まず、進学先が決まらない人は、様々な本を読みましょう。読む本は工学関係の本だけでなく、自分が興味を持った分野の本で構いません。実際、私も進学先をどうするか迷っていた時期に、「重力とは何か」という本を読み宇宙物理学（天文学）に興味を持ち、進学先を決めました。自分の興味のあることのほうが、その後の受験勉強のモチベーションが上がると私は思います。

受験勉強では、とりあえず希望する大学で、どのような科目が出題されているかを調べ、自分が習っていない科目が

あれば早めに独学で勉強しましょう。編入試験に「習っていないからできなかった」は通用しません。過去問の傾向に頼るのは愚の骨頂です。実際に私は、過去問の傾向を頼りに筑波大学を受験し失敗しました。傾向が常に変わらないと100%言える大学はおそらくないと思います。過去問は出題科目の確認程度で、かつ、問題集の問題と同程度のものと認識しましょう。受験勉強は、始めようかなと思った時から始めても構いませんが、最低でも4年生の冬休みの時点から始めていないと危険です。なるべく早めに行いましょう。

面接では、志望動機はもちろん聞かれますが、自分の進みたい分野についても深く聞いてくるので、本当に自分がやりたいと思う分野を見つけたほうが面接で苦労しません。

編入試験はつらいものだと思っている人も多いと思いますが、合格したときの喜びは努力した量に比例して大きいと思うので頑張りましょう。



未来の自分のために

物質工学科5年 加島 徳人

私は長岡高専の専攻科に進学することになりました。4年生の初めの頃は進学するか、就職するかとても悩んでいました。そんな中、4年生の後期から遺伝子系の研究室に配属され、遺伝子系の研究に興味があった私は、そこでの研究がとても興味深く、この研究を2年間続けたいと思ったのが専攻科に進学した1番の理由です。

進路を真剣に考え始めた時に初めて、もっと勉強しておけば良かったと痛感しました。恐らく、多くの人が自分の進路を考えるときになって痛感することになると思います。後輩

の皆さんは「あの頃からテストで点を取って入れば…」という後悔をしないように、日頃から勉強を頑張っておきたいと思っています。

また、面接や推薦書を書くときに部活をやっていた良かったと思えました。私は水泳部に所属していますが、部活と勉強を両立するのはとても大変でしたし、時には辞めたくなくなるようなことさえありました。しかし、水泳部で経験した感動や悔しさは、推薦書を書くときや、面接の際に自分をアピールするのにとても役立ちました。部活や学生会等、何か一つでも頑張ったことがあれば、就活や入試の面接の時に絶対に役立つと思います。

自分のやりたい研究、自分のやりたい仕事を卒業までに見つけて、目標を達成するための努力を惜しまずに頑張ってください。



卒業後の進路を考える後輩諸君へ

環境都市工学科5年 阿部 真之介

自分は専攻科に進む道を選びました。専攻科の受験は5月ぐらいでしたが、専攻科に限らず受験は5年生になるとすぐにやってくると思われます。

まず、年を越したら現実的なプランを立てましょう。1月は1年生及び2年生の範囲を勉強します。自分の得意な所から始めて、モチベーションを高めます。第1週、第3週は理系科目、第2週、第4週は文系科目に費やします。2月に入ると3年生及び4年生の範囲に入ります。今度専門科目が台頭してくるので、理系・文系のサイクルはそのままに、通常の勉強量にプラス20%の割合で専門科目を混ぜていきます。3月に入ると4年生の続き、5年生の勉強

強に入ります。また、受けた大学範囲に従って習っていない箇所も予習を兼ねて勉強します。このようにして3か月で一通り回しましょう。

3か月を一まとまりで考え、それに応じて1日の勉強時間を決めていきます。4月に入ったら、もう一回りする勢いでペースを早めていきます。最後になって4、5年生の範囲まで回らなくなることを防ぐため、3年生、4年生、5年生、2年生、1年生の順で回しましょう。これである程度の力は付くはずですよ。

この勉強量で付く力を50とすれば、早めの準備をしていれば70、80程度にはなっていると思います。横浜国立大学や筑波大学を受けましょう。

就職に関しても、勉強は必須です。上記50に加え、面接の準備を並行してやりましょう。

薔薇色の人生が貴殿にあらんことを。

平成24年度進路状況一覧 平成24年11月現在

●専攻科進学・大学編入及び大学院進学予定状況

1. 本科

専攻科進学・大学編入予定先	長岡高専専攻科	東北大学	茨城大学	千葉大学	東京農工大学	東京工業大学	新潟大学	長岡技術科学大学	富山大学	金沢大学	福井大学	信州大学	豊橋技術科学大学	岡山大学	九州工業大学	首都大学東京	武蔵野美術大学	合 計
機械	6							11	1		1		1					20
電気	6	1					2	14	1				1					25
制御	9	1			1		5	9					3		1	1		30
物質	9		3	1	2	2	10	8		1		3	1	1				42
環境	8						2	18										28
計	38	2	3	1	3	2	19	60	2	1	1	3	6	1	1	1		145

2. 専攻科

進学予定先	長岡技術科学大学大学院	金沢大学大学院	静岡大学大学院	早稲田大学大学院	合 計
電子	5			1	6
物質		1	1		2
環境					0
計	5	1	1	1	8

●就職内定企業等一覧

1. 本科

○機械工学科

東北電力、クラレ、パナソニックテクニカルサービス、サントリプロダクツ、ブルボン、エヌ・エス・エス、シチズン時計、ツガミ、山崎製パン、倉敷機械、丸山自動車、えちごトキめき鉄道、小川コンベヤ、日立建機、国際石油開発帝石、横河フィールドエンジニアリングサービス、オーエム製作所、三菱ガス化学

○電気電子システム工学科

パワーアシスト、クラレ、エヌエヌアドバンテック、東海旅客鉄道、国際石油開発帝石、マコー、ルクレ、ネクスコ・エンジニアリング新潟、東北インテリジェント通信、イトーラスト、オーエム製作所、鈴民精密工業所、エヌ・ティ・ティ エムイー

○電子制御工学科

エヌ・ティ・ティ エムイー、日本ケミコン、コスモシステム、COM電子開発、スタンレー新潟製作所

○物質工学科

アルプス電気、星光PMC、東新工業、日本原燃

○環境都市工学科

東海旅客鉄道、アドヴァンス、安藤組、東京水道サービス、植木組、エヌ・ティ・ティ エムイー、東日本旅客鉄道、本間道路、中元組

2. 専攻科

○電子機械システム工学専攻

ツガミ、マコー、日本精機、富士通ミッションクリティカルシステムズ、日立交通テクノロジー、ギヤノントッキ、ニイガタマシンテクノ、メイテックフィルダース

○物質工学専攻

栄通信工業、旭化成ケミカルズ

○環境都市工学専攻

開発技術コンサルタント、本間組、ネクスコ・メンテナンス新潟、東日本旅客鉄道、エヌ・ティ・ティインフラネット、ショーボンド建設



企業実習

第4学年では、夏季休業期間中に実施する選択科目として「企業実習」を開講しています。この科目では、本校が定める受け入れ企業および機関において、1週間から2週間までの期間に、生産・技術等の就業体験を通じて、実践的な技術感覚を体得させるとともに、技術者として必要な人間性の形成を図ることを目的としています。

企業実習受け入れ企業・機関一覧

■ 機械工学科 (21社)

一正蒲鉾株式会社, 株式会社オーエム製作所, 株式会社大原鉄工所, 株式会社兼古製作所, 株式会社コロナ, 株式会社新潟日立, 株式会社ブルボン, 株式会社リケン (2名), 国際石油開発帝石株式会社, サントリーホールディングス株式会社, 全日本空輸株式会社, 東燃ゼネラル石油株式会社, 新潟県工業技術総合研究所中越技術支援センター, 独立行政法人日本原子力研究開発機構大洗研究開発センター, 日本精機株式会社, ニューロング精密工業株式会社, パナソニック株式会社エコソリューションズ社 (2名), 広井工機株式会社, 富士通フロンテック株式会社 (2名), 三菱瓦斯化学株式会社 (2名), 有限会社エヌ・テック

■ 電気電子システム工学科 (7社)

朝日酒造株式会社, 一般財団法人東北電気保安協会 (2名), 株式会社コロナ, 国際石油開発帝石株式会社, ジェイマックスソフト株式会社, TDKラムダ株式会社, 新潟造船株式会社

■ 電子制御工学科 (5社)

旭化成株式会社, 開発電子技術株式会社, 株式会社グローバルネットコア, 株式会社北越電研, ジェイマックスソフト株式会社

■ 物質工学科 (14社)

旭カーボン株式会社, 越後製菓株式会社 (2名), 大阪ガス株式会社, 株式会社クラレ (2名), 株式会社ブルボン, 株式会社雪国まいたけ, 中越酵母工業株式会社, 東燃ゼネラル石油株式会社, 新潟県農業総合研究所食品研究センター (2名), 日揮触媒化成株式会社 (2名), 北陸ガス株式会社, マサル工業株式会社 (2名), 三菱瓦斯化学株式会社, 吉乃川株式会社

■ 環境都市工学科 (12社)

大原技術株式会社, 株式会社植木組, 株式会社大石組 (2名), 株式会社キタック, 株式会社福田組, 株式会社本間組, 国土交通省北陸地方整備局 (2名), 東日本高速道路株式会社 (2名), 東日本旅客鉄道株式会社, 北陸ガス株式会社, 新潟県土木課 (2名), 山崎醸造株式会社



企業実習を終えて

機械工学科 加藤 郁弥

私は東燃ゼネラル石油株式会社という企業の川崎工場で、2週間実習させていただきました。この企業は主に輸入した原油・ナフサから、ガソリンや灯油などの石油製品や自動車用製品から化粧品に至るまでのあらゆる生活の場面で活用されている化学製品の製造などを行っています。私は就職でガス関係の企業を考えていたのでこの企業を選びましたが、この実習では企業の作業内容のことだけでなく人間面やこれからの進路について改めて考えるいい機会になりました。

この企業は安全への意識が高く、人間関係・コミュニケーションが大切であるという印象を受けました。工場内には危険物を扱うエリアもあるため、保護メガネやヘルメットの着用をしていて、現場点検を行う前と後は職場の中で互いに安全確認を徹底していました。また、グループで結果を出す企業なので、人間関係を大切にすることで業績の向上にもつながります。安全への配慮や人間関係は日頃の生活でも十分大切なことであるので、普段から意識していきたいと感じました。

今回の実習を通して、自分に欠如している部分が見えたり、これから自立していくためには何が必要なのか見つけることができたりして、今の自分を見つめ直し、これから就職を考える上で有意義な期間を過ごすことができました。



企業実習で学んだこと

電気電子システム工学科 田村 正幸

私は夏休みを利用して2週間、企業実習に行きました。学校で習った知識を生かし、社会で実践したいと考え、企業実習に参加しました。実習先の企業はジェイマックスソフト株式会社です。この会社

は、システムインテグレーターとして、システムインテグレーション、システムコンサルティング、ソフトウェア開発、情報処理サービスを手掛けています。グループでのプログラム開発を期待していたのですが、いざ実習に参加してみると、実習内容は予想していたものと全く異なるものでした。まず初日に、渡されたパソコンに必要なアプリケーションをインストールするのにバージョンアップを要したため四苦八苦しました。その後1週間は、ひたすらHTMLを読んだり、パワーポイントをうい

た発表やレポートの作成をすることになりました。ようやく2週目にプログラムの作成ができると思ったのですが、BASICを使ったもので、学校ではほとんど扱ってこなかった課題でした。しかしながら、そのような状況でも数多く学ぶことがあり、一つ一つ新しい知識を身に着けながら、課題をやり遂げることができました。今回の実習を通して、高専で学ぶだけ

でなく、自発的に様々なことを学んでいく姿勢が大切だと気付きました。また、来年の4年生には企業実習では数多くのことが学べるので、積極的に参加をして欲しいと思います。最後になりましたが、実習を受け入れてくれたジェイマックスフト株式会社みなさんにお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

企業実習を終えて

電子制御工学科 林 哲郎



私は今回、県内魚沼市にある開発電子技術株式会社の小出営業所で5日間の企業実習を行いました。こちらの企業は主に、東京電力や東北電力、KDDIなどの企業を相手に仕事をされています。事業内容としては、無線通信を主体とした各種通信システムの設計、建設、保守等があげられます。

実習は、座学と現場見学という形で行われました。座学ではLANや通信ケーブルに関する話を聞き、現場見学では、奥只見、奥清津発電所や守門の中継局等へ連れて行ってもらい、資料を見ながら機器や設備に関する様々な話を伺いました。通信機械室やダム制御室など、普段では絶対に見ることができない場所を見ることができ、貴重な体験ができました。

た。また、移動中には所長から専門的な話や、昔の話、現場の話等を伺い、勉強になりました。

私は4年生で、進路を考えなければいけない時期だったのですが、ぼんやりとしか考えておらず、企業実習に行けば何か参考になるだろうという軽い考えで今回の企業実習に応募しました。実際に行ってみて、通信関係のことで勉強の面で学ぶことも勿論たくさんあったのですが、実際に社会人が仕事をする場所に行って雰囲気を感じることができたことが個人的には最大の収穫でした。

仕事場というのはもっと堅いところで、人のつながりが希薄だというイメージだったのですが、年代の違う人々が集まって、企業同士で密に連携をとりながら仕事をしている現場を見て、働くことについて少しポジティブになることができました。企業実習に行こうかどうか迷っている人はぜひ考えてみてください。

企業実習を終えて

物質工学科 松井 優太



私は、当初から進学の前でしたが、企業とはどんなものなのかを進学前に知りたいと思い、本企业実習に参加しました。私は生物コースなので、生物系の学習が役に立つ会社を探し、越後製菓株式会社の総合研究所を志望しました。実習内容は、製品原料中の水分量の測定、製品上での有害菌の生育の予防のための薬品の検討、高圧技術に関するレポートの和訳でした。実習を通して感じたことは、まず社会的なルールである、あい

さつや言葉遣いの大切さでした。学生は、教員以外に目上の人が少ない環境で生活していますし、高専ではあいさつも少ないため、普段やらないことはなかなかできないものだと感じました。また、実験等における、技術的・思考的な未熟さや経験不足も感じました。今後は、授業や実験に対する姿勢をより真剣なものにし、実験もただ実験書通りに行うのではなく、しっかりと理解したうえで行っていきたいと思いました。また、あいさつも習慣的にできるように心がけ、言葉遣いに関しても、しっかりと使い分けられるようにしていきたいと思いました。来年度の4年生のみなさん、参加を迷っているなら、ぜひ参加してみてください。自分の知らない世界が見え、思考の幅が大幅に広がると思います！

企業実習を終えて

環境都市工学科 小川 朝水



私は北陸地方整備局国営越後丘陵公園事務所で実習させていただきました。期間は10日間でした。実習では「国営公園の利用者動向調査と傾向分析」というテーマが与えられ、公園利用者に対するアンケート調査を実施しました。具体的には、アンケート用紙の作成から、収集、結果の整理と分析を行い、その結果をまとめ、発表をしました。

他には公園業務の実習、現場見学やボランティア活動に参加しました。実習中は夏の暑い中、外での作業がほとんどで大変でしたが、実際に公園を支えている人たちの活動がで

きて良かったです。

アンケート調査で最も大変だったことは結果を分析することでした。収集したデータのまとめ方によって結果が大きく変わってしまいます。誰もが納得できるように、なぜそのように考えたのか伝えることが難しかったです。

今回の実習で、自分で考え工夫することが「仕事」だと思いました。実習を通して自ら考え実行することの大変さがわかり、また、教えてもらえるありがたさを実感しました。わからないことばかりでしたか10日間のうちに徐々にできるようになりました。

どんなことでも一生懸命することが大切です。企業実習は充実した10日間になりました。これから、進路を決めていくときに、今回の体験を活かしていきたいです。



第4学年見学旅行

(平成24年9月25日(火)～28日(金))

見学旅行は、国内の最新の技術や設備のある工場や研究所等を見学し、専門の知識を豊かにするとともに、文化財、名所旧跡を訪ね日本の伝統と文化を学び、技術者としてバランスのとれた成長を促すことを目的とした教育活動の一環として、4年次に行われるものです。

見学先一覧

機械工学科：東京・大阪

- ・東芝エレベータ 府中工場
- ・下西製作所
- ・サンクレスト
- ・講演会 講師：青木豊彦氏（株式会社アオキ代表取締役）
- ・コクヨ 大阪ショールーム

電気電子システム工学科：北海道

- ・旭山動物園
- ・白い恋人パーク
- ・トヨタ自動車北海道

電子制御工学科：三重・奈良・京都・大阪

- ・本田技研工業 鈴鹿製作所
- ・シャープ 亀山工場
- ・奈良先端科学技術大学院大学

物質工学科：兵庫・大阪

- ・造幣局
- ・神戸ヤクルト工場

環境都市工学科：東京・大阪・兵庫

- ・東京スカイツリー
- ・ANA機体メンテナンスセンター
- ・明石海峡大橋 橋の科学館



まいど！

機械工学科 大山 薫

私たち機械工学科は9月25日から4日間東京、大阪方面に行ってきました。初日の東京では東芝エレベータ府中工場への企業見学とお台場散策、2日目は大阪で中小企業への企業見学と青木社長の講演会、3日目は自由行動、4日目はコクヨに行き様々な体験をしました。

僕は友人達とお台場で遊び歩き、大阪の街で食べ歩き、各企業の見学等とても濃い時間を過ごしました。

その中で特に強く心に印象に残っているのが二日目の青木社長の講演会です。青木社長の講演会では、様々な体験談やモノづくりについてお話しいただき、その中で忘れられない話があります。それは、「誇りを持つこと」です。「誇りを持つと

いうことは自分の言動に対して自信がつき、気持ちも前向きになります。この誇りが会社の、そして日本の底力に繋がってくるはずです。」この言葉は今後の進路を決める際に、決断する時の判断の助けになると思います。

旅行を通して、今後の進路に役立つ経験ができ、何より仲間との一生の思い出を作れたと思います。



見学旅行を終えて

電気電子システム工学科 伴内 健太

私たち電気電子システム工学科は9月25日から28日までの4日間、見学旅行に行ってきました。1日目は19時間に渡って船で目的地である北海道を目指しました。そして、2日目の早朝5時に小樽に到着し、旭山動物園へと向かいました。旭山動物園では実際の生活や行動を観察する行動展示に力を入れており、ペンギンがプールの中に設置されたトンネルを泳ぐ姿や、動物の食事風景などを観察しました。その後白い恋人パークを見学し、「白い恋人」の製造過程や、歴史、衛生面への配慮等を知ることができました。

3日目は、トヨタ自動車さんの工場を見学させていただきました。社内には2005年に開催された「愛・地球博」で人気となったパートナーロボットがあり、トランペットでの演奏を聴く

ことができました。製造においては人に危険が及ぶ場所は機械の制御で行い、細かな部品は人の手でっており、どちらも欠かすことのできない要素であると知りました。

今回見学した2つの工場を通して、消費者の安全にとっても配慮しており、将来自分が仕事をする時にも使う人のことを考えた仕事をしたいと感じました。





見学旅行に行って

電子制御工学科 高橋 彩

私たち電子制御工学科は見学旅行で関西方面に行ってきました。三重県の本田技研鈴鹿製作所、シャープ亀山工場、奈良県の奈良先端科学技術大学院大学とさまざまなところを見学してきました。

本田技研鈴鹿工場では自動車生産工場の組み立てラインと溶接ラインを見学してきました。溶接ラインでのロボットの精密な動きを実際に見て、制御という技術の凄さを改めて感じました。

シャープ亀山工場では液晶やディスプレイなどの過去・現在・未来を見据えたシャープの製品を見てアイデアの豊富さに驚かされました。工場自体はガラス越しでの見学でしたが、無人で稼働する工場を見て改めて技術の高さを感じました。

奈良先端科学技術大学院大学ではロボティクス研究室と

未来技術を調査するシンビオティックシステム研究室を見学してきました。どちらの研究室もとても興味深い研究をされていました。これから自分も卒業研究をしていくので考え方やアイデアなど参考になるお話をたくさん聞くことができとてもよい経験だったと思います。

この4日間の旅行で貴重な経験を得ることができました。この経験をもとにまた学業に励んでいきたいと思っています。



神戸・大阪行ってきたで！

物質工学科 川津 風花

私たち物質工学科は9月25日～28日の4日間、神戸・大阪に行きました。実は関西が初めて、という人も多く、初日から最後まで全力で楽しみました。

工場見学は大阪造幣局と神戸ヤクルト工場に行きました。どちらの工場も共通して思ったことは、人が少ないということです。ゴツイ機械がずばずば作業していて、むしろ人が働いているところが見られなかったのは驚きました。でも、人がどうしてもやらなくてはならない作業もあり、一つ一つ丁寧に作業していました。機械や人も仕事の技術を持っていて、仕事っているのはやっぱり大変ですすごいことなんだなあと思いました。

自由行動は、神戸の異人館に行きました。一番思い出に残っているのはココ！というくらい面白かったです。予習なしで行っ

たのでとにかくびっくりしました。一番好きになったのは「ベンの家」という建物です。動物の剥製がたくさんあり、白熊や牛、豹などその迫力に一つ一つ一喜一憂しながら楽しみました。

この4日間で就職への考え方が少し変わった気がしました。ここで得たこと、感じたことを今後の学校生活、進路に役立てていきたいです。



見学旅行

環境都市工学科 菊池 都

私たち環境都市工学科4年の見学旅行では東京、大阪、兵庫を訪れました。主な現場見学先は東京スカイツリー、ANA機体メンテナンスセンター、明石海峡大橋、橋の科学館です。

東京スカイツリーでの見学では、見上げた時の構造美が特に印象に残っています。東京の街に馴染んだ近代的なフォルムは、新しい東京のランドマークとして意識させる喚起力がありました。

羽田にあるANA機体メンテナンスセンターでは、実際に機体を整備している現場の様子を見学させて頂きました。広い整備工場でたくさんの技術者の方がボディやエンジン部分を整備している様子は、とても真剣で緊張感がありましたが、広い工場では技術者の方が三輪車で移動している様子は少し意外でした。現場では工具一つ一つに記名するなど飛行機の整

備に対する意識の高さを伺えました。

明石海峡大橋と橋の科学館では橋を作るまでのプロセスや構造を学び、また実際の明石海峡大橋を間近で見学しました。10年という年月をかけて架けられた明石海峡大橋は、世界最長の吊橋の名にふさわしく、迫力がありました。

今回の見学旅行を通して人が作る構造物の魅力と技術者の熱い想いに触れました。私たちもこういった現場で活躍できるような人材になれるよう努力したいと思います。





専攻科フォーラム2012を開催致しました。

平成24年8月2日に本校441講義室にて専攻科フォーラム2012を開催致しました。フォーラムには専攻科生と来年度専攻科に進学予定の本科5年生の総勢80名が参加致しました。特別講演の講師として長岡技術科学大学の原子力安全系・教授 小川 徹 氏をお迎えし、専攻科2年生の山田君ほか4名が就職・進学報告を行いました。また教務関係や学校生活等のフリーディスカッションでは、活発な議論が交わされていました。

専攻科フォーラム2012 プログラム

開催日：平成24年8月2日(木)
場 所：441講義室
時 間：13時00分～15時50分

1. 専攻科長挨拶

2. 特別講演会

長岡技術科学大学 原子力安全系 系長 小川 徹 教授
講演題目：「原子力とは何か」



3. 就職・進学報告会

山田 隼也 君, 金塚 智洋 君, 全 潤樹 君, 久住 拓司 君



4. フリーディスカッション



5. 閉会の辞

専攻科フォーラム2012



原子力の認識

電子機械システム工学専攻1年 田中 涼

「原子力とは」と聞かれたら、多くの人は以前までは私たちの生活の中で必要な電気を生み出すための源、原子力発電の～といった発電に結び付いた解釈でした。しかし、2011年の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により、放射能が、放射性物質が、といった危険な化学物質が多量に排出されるものと、悪いイメージを持つ人が多くなってきています。今回の専攻科フォーラムでは長岡技術科学大学・原子力安全系の小川徹教授が原子力について講演されました。自然放射性物質を知り、核エネルギー利用の仕組みを知り、原子力についての知識を深める事ができました。さらに、原子力発電を続けたとして原子炉で事故が発生した時の影響を緩和するための深層防護についてどのようなことがなされているかなどの対策方法も知ることができました。そして、原子力発電を再開するのも悪くないのではと思いました。この講演を聞いて、危険視されているものでも見直しや対策を講じた上で安全に利用できるものもあり、そのようなものが私たちの生活をより豊かなものとし、さらには身の回りにまだ多く存在するのではないかと思います。

.....



専攻科フォーラムに参加して

電子機械システム工学専攻1年 増田 健太

今年度の特別講演は、長岡技術科学大学の小川徹教授を招き、「原子力とは何か」という題目で行われました。現在、原子力についての話題は非常に関心が高まっており、技術者を目指す私たちにとっても、切っても切り離せない問題です。講演内容は、周囲にある自然放射性物質の話や核分裂の仕組み、事故が発生した場合の深層防護(多重防護)についてなどでした。この講演では、普段、ニュースなどで見かける原子力についての疑問をわかりやすく解説して頂き、非常にためになりました。

就職・進学報告会では、2年生の就職者と進学者による、進路決定までの一連の流れやおおよそのスケジュール

についての報告が行われました。私自身は専攻科卒業後の進路は進学を考えていましたが、大学院入試についてはわからないことが多かったため、この発表を聞き、編入学と大学院入学の違いや、進学するために自分自身がどのようなことを行うべきかを知ることができました。このことを参考にし、計画的に自分の進路について考えていこうと思います。

学外実習報告



学外実習を終えて思うこと

電子機械システム専攻1年 高橋 克哉

私は茨城県にある前川製作所守谷工場にて2週間の学外実習をさせていただきました。前川製作所の主な事業は、産業用冷凍機のコンプレッサーを製造販売することです。今回の実習ではコンプレッサーに使用される部品の検査をお手伝いさせていただきました。実習中は、図面の読み取り、測定機を用いた寸法測定といった学校ではあまり体験することができない事を体験することができました。また、実習中は社員寮で生活を行い、集団で生活する際の規律や社会人としてのマナーを学びました。さらに、現場で働く先輩方から貴重なお話を聞く事ができたり、同じく実習生として来ていた他大学や他高専の学生と交流を深めたり、非常に有意義な時間を過ごせたと思います。

専攻科を卒業したら就職しようと考えている私にとって、今回の学外実習で体験できたことはとても貴重なものであり、今後の就職活動に生かしていきたいと思います。

実習期間は2週間と短く感じましたが、学ぶことが多く将来について真剣に考える良い機会になったと思います。

.....



学外実習を終えて

物質工学専攻1年 小林 大記

私は北越紀州製紙株式会社研究所を実習先として、「海外塗工紙の成分分析」というテーマで2週間にわたり実習をさせて頂きました。実習を終えて強く痛感したことは、私が社会に出てやっていくにはまだまだ未熟な面があるということです。作業以外のちょっとしたときの気遣い、言葉遣い、動作など後でああすればよかったと思うことが多々ありました。企業という右も左も判らないところへ一人置かれることにより、高専で生活しているときには見えてこなかった部分というものを発見することができました。私が実習を経て学んだことは、上述したような意識的なことの方が技術的なことよりも多かったように思います。なので、これから4年生、専攻科へ進学する皆さんにはぜひ、嫌々ではなく積極的にインターンシップの機会を利用し、企業や大学をその目で、肌でたくさん感じて来て欲しいと思っています。そこで得た経験は今の自分を見直す良いきっかけとなり、きっと将来の役に立つことと思います。



学外実習報告

環境都市工学専攻1年 金子 生樹

今回の学外実習では、小柳建設さんに2週間お世話になりました。小柳建設さんを希望した理由としては、ゼネコンの仕事内容というものを知っておきたいと思ったためでした。実習内容としては、多くが現場での作業見学や補助的な作業でした。学外実習期間中は連日猛暑日となっており毎日のように熱中症注意報が出ていました。そのような中でも作業員の方々は1日中作業をされておりすごいと思うと同時に大変な仕事であると感じました。また、小柳建設さんが施工や構造物や施工途中の橋等の見学にも連れて行ってもらいました。印象に残っているのは「八十里越」という新潟県三条市と福島県南会津郡只見町を結ぶ街道で施工途中の2つの橋の現場でした。とても大きな工事で施工している橋もとても大きなものでした。The土木工事という現場でした。

小柳建設さんに2週間お世話になり多くのことを学ばせていただきました。学校では体験できないことや学べないようなことばかりで驚くことも多かったです。また、今回の学外実習が就職を考える上でいい経験になりました。

黒龍江工程学院へ交換留学生を派遣

9月2日から9月21日の期間、環境都市工学専攻科2年生の関由里絵さんと五十嵐彩絵さんが、学生交流の覚書に基づき中国・黒龍江工程学院へ交換留学生として派遣されました。

第1回目となる今年度の交換留学プログラムは、都市計画や中国建築史など環境都市工学の専門科目講義の受講（中国語あるいは英語）と中国語、太極拳、組紐や書道などの文化体験研修でした。

現地では本校の教育課程や学生寮などについて、ふたりが英語でプレゼンテーションする機会もあり、お互いの学生生活などの情報交換も行われました。

講義、スポーツ、文化体験研修や市街地探訪などのプログラムを通して、両校の学生が相互に楽しみながらより強い信頼関係を築けた留学プログラムでした。

今後もこの交換留学を多くの学生が利用してくれたらと思います。



中国文化体験研修



部活動報告



・平成24年度高等専門学校体育大会結果
地区大会・全国大会の上位入賞種目を紹介します。

■関東信越地区高等専門学校体育大会

開 催 種 目	結 果
ソ フ ト テ ニ ス	男子個人戦 山野・田之口組 3位
ハ ン ド ボ ー ル	2位
バ ド ミ ン ト ン	男子団体 3位
	女子団体 2位
	男子ダブルス 宮部・ピンウェイ組 3位
	女子ダブルス 金井・岸組 優勝
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	男子シングルス 金井 綾香 3位
	岸 えみり 3位
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	2位
	男子団体 優勝
	男子60kg級 清水 隆史 優勝
	男子90kg級 渡邊 裕太郎 優勝
柔 道	品川 彰 2位
	森山 諒 3位
	五味 凛太郎 3位
	男子90kg超級 3位
水 泳	総合 3位
	女子200mフリーリレー (大滝 吉弘, 前田 石丸) 3位
	男子400m自由形 大倉 真一希 2位
	男子800m自由形 大倉 真一希 優勝
	岡 伸哉 2位
	男子200m平泳ぎ 西山 真史 2位
	男子200mバタフライ 大橋 直矢 3位
	女子50m背泳ぎ 前内 天依 2位
陸 上	女子100m平泳ぎ 石丸 美穂 2位
	男子4×400mリレー (高野 高野, 小林 須藤) 2位
	男子200m 須藤 大翔 3位
	男子110mハードル 須藤 大翔 優勝
陸 上	前田 一樹 3位
	男子三段跳 前田 一樹 3位

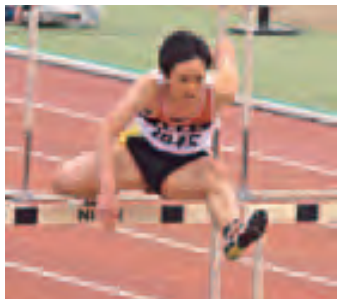
■全国高等専門学校体育大会

開 催 種 目	結 果
水 泳	男子400m自由形 大倉 真一希 10位
	男子800m自由形 大倉 真一希 7位
	岡 伸哉 9位
陸 上	男子4×400mリレー (高野 高野, 小林 須藤) 6位
	男子200m 須藤 大翔 8位
	男子110mハードル 須藤 大翔 優勝(大会新記録)
	男子三段跳 前田 一樹 2位

5年間を簡単に振り返って

陸上競技部 機械工学科5年 須藤 大翔

部活や他の課外活動をやらない限り、ほとんどクラス内だけしか関わらない高専という環境の中で、部活をするを選んで本当に良かったと思う。高専に入ってもし何もしなかったら勉強の知識と数人の友人関係以外ほとんど何も得ない5年間になってしまったと思う。新入生には、自分の世界観を広げるためにも、長い5年間を有効に活用して何かにチャレンジすることをおススメしたい。



～江田 茂行顧問より選手紹介～

長岡高専に入学してから陸上競技をはじめ。2010年、沖縄インターハイ出場(新潟県高校チャンピオン)。全国高専大会三連覇による特別表彰&大会新記録を樹立。全国高専記録保持者。北信越学生チャンピオン。全日本インカレ(大学の全国大会)出場が主な戦歴。

今シーズンを振り返って

水泳部主将 電子制御工学科2年 西山 真史

現在水泳部では、1,2年生を中心に秋から春は悠久山屋内プールで、夏は学校のプールで活動をしています。水泳は、個人種目がメインとなっているので部員それぞれに目標があり、水泳部全体としては総合優勝を目標とし、皆その目標に向け、日々練習しています。水泳部の練習では受動的に練習に参加するのではなく、能動的に部員や先生全員で練習を組み立て、取り組むように努力しています。今年の夏には津南で水泳部全員で合宿を行い、そこでは厳しい練習だけでなく、食事や企画などを通して、上級生と下級生の交流を深め、チームとしての連帯感をより一層深めることができました。



高専地区大会では1から5年生までが出場し、多くの種目で入賞者を出すことができ、全国大会への出場者もたくさん輩出し、総合でも3位という結果となりました。競技だけでなく応援の面でも他の高専を圧倒するような応援をしていました。今シーズンの結果を受け、来シーズンこそは総合優勝をし、今年よりも全国大会出場者を多く輩出をするという思いでこれからも練習をがんばっていきます。みなさん応援よろしくお願いたします。

今年よりも全国大会出場者を多く輩出をするという思いでこれからも練習をがんばっていきます。みなさん応援よろしくお願いたします。

今年よりも全国大会出場者を多く輩出をするという思いでこれからも練習をがんばっていきます。みなさん応援よろしくお願いたします。

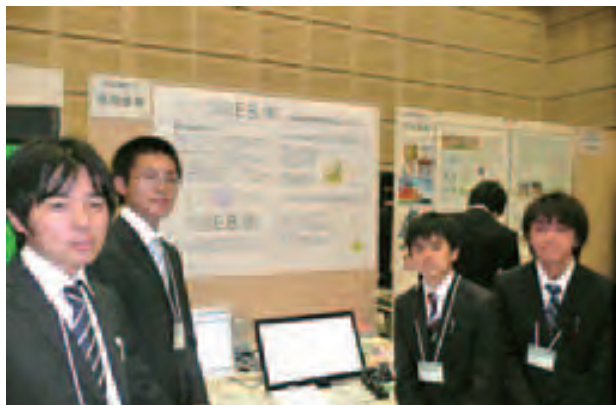
全国高専第 23 回プログラミングコンテスト

電子制御工学科 准教授 竹部 啓輔

今回は、福岡県大牟田市の大牟田文化会館で開催されました。本校からは、自由部門にEC5河谷君、古田島君、高山君、和田君の4名が、競技部門にEC3久保田君、EE3佐藤君、EC2川崎君の3名が出場しました。

自由部門の作品は、「niconicoE.B.(β)-英語多読教育支援システム-」で、英語多読の記録を手軽につけられたり、自分のレベルにあった本のおすすめ情報が得られたりなど、英語多読を支援するシステムです。十分な完成度と実用性から、特別賞以上を期待していましたが、昨年の作品と同じ敢闘賞でした。

競技部門は、競技エリアにばら撒かれたたくさんのサイコロの数を答えるというゲームです。サイコロのサイズは大・中・小の3種類で、それぞれ数十～数百個あります。デジタルカメラで撮影した画像をもとに、画像処理などを駆使して、制限時間内に正確な数を推定します。サイコロの縁が画像処理で検出することが困難であったため、完全に画像処理だけで問題を解いたチームはなかったようです。本校のチームは、予行演習では良い成績を出せたのですが、1回戦、敗者復活戦とも振るわず、準々決勝には進めませんでした。



自由部門：デモンストレーションブースにて



競技部門：敗者復活戦で奮闘する3人

アイデア賞を受賞するも全国大会出場ならず

ロボティクス部部长 機械工学科3年 金井 雅也

10月14日、ALSOKアリーナ（群馬県前橋市）にて「高専ロボコン2012ベスト・ペット」の関東甲信越地区大会が開催されました。第25回の競技課題は、「ベスト・ペット」。様々な種類のペット・ロボットが、高専生と協力して玉入れをする競技です。しかも、今回は、高専ロボコンで初めて、コントローラーなしで競技を行いました。

長岡高専からは「奇想天外」と「大犬闘」の2チームが出場しました。「大犬闘」は犬をモチーフにした4足歩行ロボットで、飼主（伴走者）の指示し従い歩行、旋回ができるほか、そのお手、おかわり、お座りなどの芸をするなど、より犬らしい動きを追求しました。そのパフォーマンスとアイデアが高く評価され、アイデア賞と特別賞を受賞しました。「奇想天外」はてんとう虫をモチーフにした6足歩行ロボットで、素早い歩行機構と命中精度の高いボール発射機構を追求したロボットです。奇しくも、全国大会を逃してしまいましたが、今回の賞の受賞はここ最近までにはなかった全国大会出場への大きな一歩であったと確信しています。部員全員が心を新たに、ロボット競技会のロボットの製作、新たな技術の習得や技術の向上など各自切磋琢磨している真最中です。

来年度は今年度の反省を踏まえ各自が磨き上げた技術を集結し、全国大会で上位入賞できるロボットを創り上げます。最後になりましたが、応援してくださった皆さん、サポートしてくださった先生方、携わってくれた方全員に感謝しています。本当にありがとうございました。



Sports Festival

体育祭を振り返って

体育委員長 環境都市工学科 3年 岩淵 崇宏

今年度の体育祭は「何か記憶に残るような体育祭にしよう!」をコンセプトに、去年の競技のいくつかをバージョンアップさせ、さらに女子限定の新競技を企画することなど色々なことに挑戦しました。また、今年は早期に運営チームを発足し、企画制作や新競技の検証などをできるだけ行い、万全の準備で体育祭に臨みました。が、やはり企画どおりに行かないのが現実。学生の誘導の下手際、競技開始時間の遅延、極めつけはあろうことか企画したルール自体がおかしいことに競技を行なった学生からの指摘で当日気づくなどの事が午前中にいっぺんに起こり、僕のツメが甘かったせいで体育祭に参加してくれた学生の皆さんに多大な迷惑をかけてしまいました。そして僕は「あんなに頑張ってたのに結局こんなもんか」と体育祭の途中なのに逃げたいという気持ちになり、諦めかけました。しかしそんな中、役員の人たちは僕があたふたして十分な指示も出ていない状態なのに文句の一つも言わず必死に動き回ってくれ助けてくれました。あの時の気持ちは言葉にできません。午後からは役員や学生の皆さんの

助けもあってスケジュール通りに進行でき、無事に体育祭を終えることができました。午前中はゴタゴタしどうなることかと思いましたが、なんとか予定時間よりも少し早めに終わることができ、結果的には楽しい体育祭になったと思います。本当に皆さんの協力がなかったら悲惨なものになっていたと思います。僕としては初めて委員長として運営してみた問題だらけの大変な体育祭ではありましたが、そんな体育祭であったからこそ、一昨年、昨年とは違う、人の温かさを心から感じさせていただいた忘れられない特別な長岡高専の体育祭になりました。しかし、もっと僕がリハーサルなどの事前準備をしっかり行なっていればこんなことにはならなかったことも事実で、これから僕に出来ることとしては、来年度の体育委員会を担う後輩役員たちにしっかりと引継ぎをし、今回の経験を生かしたサポートなどとして、来年度の体育祭がより良いものになるようにするという事だと思います。来年度も各クラス全員が丸となって盛り上がる体育祭になることを願います。



TOPICS

第37回関東信越地区高専文化発表会

文化発表会実行委員長 環境都市工学科4年 **土田 真実子**

今年も文化発表会が8月31日、9月1日に開催され、栃木県の小山市まで足を運んできました。

文化発表会とは、関東信越地区の高専文化部が集い、作品展示、発表、各部のコンペティション、その他にもたくさんの催しものがあり、たった2日間ではありますが交流を深めるにはすごくよい機会です。

今年長岡高専からはインターアクト、英語、化学、写真、書道、制御システム研究同好会、電算機、美術、ブラスバンド、文芸、模型の部活が参加をしてくれまして、100人以上の学生が参加をし、去年と同様に盛り上がりました。また各高専の特徴が大いに出た文化発表会で、たくさんの催し物もあって楽しめたのではないかと思います。

そして来年の開催地はこの長岡です。例年以上に活気に溢れた文化発表会にするために今、準備を進めている最中ですので、まだ参加したことがない学生の方もこの機会に気軽に参加していただけたらと思います。



海外技術英語研修に参加して

環境都市工学専攻2年 **金塚 智洋**

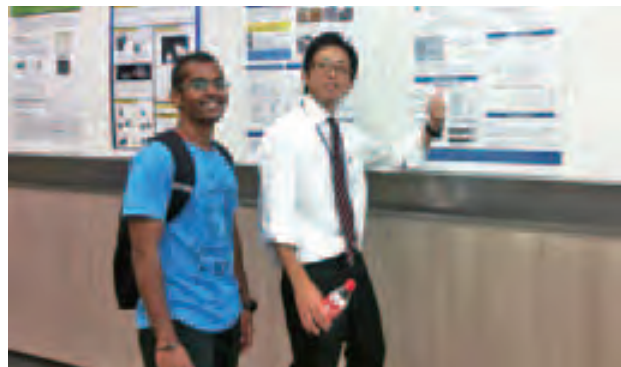
私はこの夏、高専機構による「海外技術英語研修」に参加した。行き先はシンガポール。期間は2週間。自身は初めての海外である。

動機は、この秋参加する国際学会に向けての英会話能力の向上、そして単純な海外への興味である。そして、結果として英会話能力の向上は成功した。

その2週間は、temasek polytechnicという学校で自分の研究内容を英語で発表するための特別講義を受けたわけであるが、初日は私の英語に対する自信を粉々に打ち砕く結果となった。ほとんど聞き取れず、そして話せない。I'm sorryしか話していないのではないだろうか。そして同時に、自身の英語能力について悔しさを感じ、それから毎日英語について猛勉強した。この2週間ほど真剣に英語に取り組んだことは無かっただろう。そして、それをするための十分な環境がこの語学研修には用意されていたように思う。

2週間の先生方の指導と自身の努力の結果、英語でプレゼン、ポスター発表をできるまでの英語能力を手に入れることができた。2週間ではもちろん、ペラペラというわけにはいかないが、英語に対する勉強意欲を手に入れることができたことは収穫である。

そして、現地の学校で友達になった学生とは今でも連絡を取り合っている。この研修では、ほとんど観光できなかったの、今度はプライベートでシンガポールに行きたいなどとも考えている。是非興味がある方は参加してみしてほしい。



大犬闘凱旋！ 長岡デザインフェア2012

10月20日、21日の両日に長岡造形大学で開催された長岡デザインフェア2012に本校ロボティクス部が出展して、デモンストレーションを行った。今年のフェアには、本校のほか、長岡技術科学大学・新潟工科大学・長岡工業高校がロボットを出展した。本校からは、高専ロボコン地区大会出場のペット・ロボ「大犬闘」と「かわさきロボコン」仕様のバトル・ロボの2機が出動。ロボコン地区大会でアイデア賞・特別賞を受賞した「大犬闘」にとっては凱旋デモである。当日も注目を浴び、〈飼い主〉の指示で「お手」「おかわり」「お座り」をする姿に、多くの来場者が歓声を上げた。バトル・ロボも大人気で、子どもたちがコントローラーで操作したり、ときには展示会場から出て造形大の構内を走り回ったり、大活躍であった。当日はロボティクス部顧問の山田隆一教授の指揮の下、M3金井君・同木原君・EE3村木君・同小片君の4名の部員が会場係を担当したが、ひっきりなしに訪れる来場者に礼儀正しく丁寧に説明している様子は、実にさすががしく、また頼もしく感じられた。



TOPICS

第27回関東信越地区高等専門学校英語弁論大会

校内予選を勝ち抜いた4名が、「第27回関東信越地区高等専門学校英語弁論大会」に出場しました。今年度のコンテストは本校で開催され、暗唱の部には18名、スピーチの部には20名の学生が参加しました。

長岡高専出場者一覧

－暗唱の部－

物質工学科3年 丸山 桃子 Alice in Wonderland The croquet game
物質工学科3年 太平 知恵 The stone buddhas

－スピーチの部－

電子制御工学科2年 金塚 裕也 From Bombs to Fireworks
物質工学科4年 出雲崎文菜 Education is a Gift

大会の結果、電子制御工学科2年の金塚裕也君がスピーチの部で優勝しました。金塚君は、1月に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される、全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストのスピーチ部門に出場します。



電子制御工学科2年 **金塚 裕也**

私は11月10日に行われた関東信越地区高等専門学校英語スピーチコンテストに参加させていただきました。今回の大会ではこれまで自分が海外で経験し思ったことや、自分の住む長岡の風物詩、「長岡花火」に触れて感じたことをスピーチにしました。このスピーチで「技術の平和利用」をメインテーマとしたこともあって、自分がこれから高専生活をどのように過ごすかを考える良いきっかけにもなりました。先生方や様々な方々の協力のおかげで優勝することができ、1月にある全国大会にも出られることになりました。本当にありがとうございました。全国大会では感謝の気持ちを伝えられるように、一生懸命スピーチをしてきます。

外山茂浩准教授が教員顕彰理事長賞を受賞

電子制御工学科の外山茂浩准教授が、「平成23年度国立高等専門学校教員顕彰（若手部門）」において『理事長賞』を受賞した。外山准教授が取り組んできた「実践力、人間力を育む技術者教育」が認められて受賞に至ったものである。このほど表彰状が贈られ、9月10日の教員会議の席上、表彰状授与式が行われた。

国立高専教員顕彰は、研究上の業績だけでなく、学生教育を中心とする部面において優れた功績を挙げている教員を顕彰する制度で、顕彰を通じて高専教育の充実と向上とを目指すものである。外山准教授の本校着任は平成18年4月。以来、研究活動（制御工学）に邁進するとともに、学生への教育指導にも熱心に取り組んできた。バレーボール部顧問としても監督・コーチを務め、チームを好成績に導くなど、部活指導にも力を注いでいる。今回の外山准教授の受賞は、本校の若手・中堅教員を大いに鼓舞する慶事であった。



創立50周年記念植樹祭を挙行

11月17日に長岡高専創立50周年記念事業のひとつとして、植樹祭が開催された。在学生の成長と卒業生の活躍、そして長岡高専の発展を願って23本のヤマザクラが高専坂に植樹され、記念の碑が設置された。渡邊校長は「長岡高専がヤマザクラとともに成長する姿を見てほしい」とあいさつ。記念植樹は、山崎彬技術協力会会長、伊藤恒彦同窓会長、古田島智裕後援会長、高田孝次名誉教授（第8代校長）、および渡邊校長によって執り行われた。これまでの半世紀を振り返り、また新たな50年へと思いを馳せる1日となった。

来春、若木に花がほころぶ日が今から心待ちにされる。ヤマザクラは、サクラの仲間では寿命が長く、雪にも強い樹種だという。高専坂のヤマザクラが、学生諸君の登下校を長く見守ってくれることだろう。

